

附属図書館の将来像（グランド・デザイン）

名古屋大学附属図書館の将来像は、当館の「基本理念及び基本目標」（平成26年策定）を基本とし、そこに、これまで附属図書館が成果を上げてきた強みを伸ばすことと、今後予測される社会の変化に対応する新しい取組みを加えた次の4点を、将来に向けた主たる目標として、「成長するハイブリッドライブラリー」の実現を目指す。

目標1. 蔵書 <研究と教育の礎である学術資料の整備・充実>

世界屈指の研究成果を生み出し次世代をリードする人材を育成する本学にふさわしい学術資料を集積・整備して利用に供すとともに、その保存に努める。

- ・学術資料は、紙媒体、電子媒体の双方に亘り収集・整備して充実を図る。
- ・学術資料の効率的・体系的な収集による蔵書構築に努める。
- ・貴重資料等の収集・保存と電子化による活用・公開を行う。
- ・保存すべき紙媒体資料については、保存書庫等の十分なストレージを備え、知的遺産の継承責任を果たす。
- ・自館以外の蔵書・情報へのアクセシビリティを強化する。

目標2. 研究支援 <研究データを含めた学術情報の保存・活用・発信とデジタル図書館>

文献情報だけでなく、研究データ等を含む広義の学術情報の保存・公開・活用において、研究支援の役割の一端を担い、大学でのオープンサイエンスに参画していく。

- ・今後対応が求められる研究データ管理について、保存と公開の支援をする。
- ・機関リポジトリによる情報発信機能を強化し、オープンアクセスを促進する。
- ・電子化した所蔵資料画像及び解題等の周辺情報を広く世界に発信する。
- ・学術情報のナビゲーションや探索・活用支援をする。
- ・電子的学術情報の整備と利便性を向上して、構成員のPC上でユビキタスに機能するデジタル図書館「どこでも図書館」を実現する。

目標3. 空間 <交流と知を創出する空間の提供>

附属図書館は全国に先駆けラーニング・コモンズを設置する等、アクティブラーニングに対応してきた実績がある。これを生かして、更なる発展的空間の提供を行い、人と知、人と人が直接交流するリアルな図書館空間の存在価値を創る。

- ・図書館を多種多様な人・モノ・情報が交流する場、その作用から新たな知が創造される空間とする。
- ・知の拠点となる空間を作り出すために、マルチキャンパスシステムや人工知能の導入等のインフラ整備を行う。
- ・図書館スタッフによる直接的なリテラシー教育を提供する。

目標4. 組織 <組織改革と職員育成>

学術資料や新しく取り組む研究データ等学術情報の管理、質の高い空間の提供、また、これらに関する図書館職員による学習支援や研究支援といった役割を全うするためには、組織改革と図書館職員育成が不可欠となる。また、図書館・室以外の関連する領域の部署との業務連携が重要となるため、より緊密な連携体制を図る。

名古屋大学附属図書館の基本理念及び基本目標

(平成26年3月13日 附属図書館商議委員会決定)

◆基本理念

名古屋大学学術憲章に謳われた「人間性と科学の調和的発展を目指し、人文科学、社会科学、自然科学をともに視野に入れた高度な研究と教育を実践する」という名古屋大学の学術活動の基本理念を実現するべく、学問を追究、継承する全ての人々に対し、研究・教育学修環境を提供し、学術情報の収集・保存・発信を担う。

◆基本目標

中央図書館、医学部分館、部局図書室のそれぞれの特性を生かし、学内外の組織とも連携し、学生、教職員及び社会のニーズに応える先進的な利用者サービスの実施により、以下の目標の実現を目指す。

- (1) 研究・教育学修に必要とされる学術情報の提供を行うため、電子ジャーナル、データベース、電子書籍等の電子資料を含む学術情報の効率的収集を行い、充実を図る。
- (2) 貴重資料や特色ある資料をはじめとする知的資産の収集を行い、東海・北陸地区の基幹大学としての役割を果たすべく、保存管理体制を構築する。
- (3) 学生の創造的能力の向上を目指すため、学修環境を強化し、充実した教育学修支援を行う。
- (4) 研究・教育学修支援を行うため、その専門知識を有する図書系職員を育成し、適正に配置する。
- (5) 国際的な研究・教育学修支援のため、多言語の情報提供を行う。
- (6) 学術情報流通の拠点として、名古屋大学の知的研究成果を国内外に発信し、開かれた学術情報の提供を行う。
- (7) 地域社会との連携を積極的に進め、地域の知的資産等の保存・継承に協力する。

図書館の将来像【成長するハイブリッド・ライブラリー】

